



NEWSLETTER No.39

Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2004.6.14

Announcement

第22回有機地球化学シンポジウム(2004年多摩シンポジウム) ファーストサーキュラー

世話人 井上源喜

会員各位

今年は大妻女子大学多摩キャンパスで、第22回有機地球化学シンポジウムが開催されます。女子大学では初めてのシンポジウムになります。真夏は暑い多摩ですが、暑さに負けない熱気溢れる最新の研究発表、話題提供、活発な討論が行われるものと期待しております。会員の皆様、または会員以外の方々、とくに若い院生も奮ってご参加下さるようお願い申し上げます。

記

1. 日程

8月4日(水): 運営委員会
8月5日(木): シンポジウム・総会・懇親会
8月6日(金): シンポジウム

2. 会場

大妻女子大学社会情報学部
〒206-8540 東京都多摩市唐木田 2-7-1
会場は大妻多摩キャンパスの社会情報学部棟です。多摩キャンパスは小田急多摩線の終点の唐木田駅から徒歩約5分です。会場地図は大妻女子大学社会情報学部のホームページ(<http://www.sis.otsuma.ac.jp/>)をご覧ください

い。また、多摩シンポジウムのホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaog/2004sympo/jog-tm2004/JAOG-Tam2004.htm>)からもリンクしております。

3. 開催までのスケジュール(予定)

参加・講演申込締め切り 6月30日(水)

*同封の申込書を郵送、電子メール、またはHPよりオンラインにてお申し込み下さい。できるだけHPからの申し込みをお願いいたします。シンポジウムホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaog/2004sympo/jog-tm2004/JAOG-Tam2004.htm>)から、「4. 講演申し込み方法」をご覧ください。

セカンドサーキュラー発送: 7月7日(水)
講演要旨提出締め切り: 7月22日(木)

4. 連絡先

〒206-8540 東京都多摩市唐木田 2-7-1
大妻女子大学社会情報学部
井上源喜
TEL: 042-339-0088, FAX: 042-339-0044,
E-mail: genki@otsuma.ac.jp
できる限り電子メールでご連絡くださるようお願いいたします。



- 新宿からお越しの場合は、小田急新宿から急行に乗車、新百合ヶ丘で多摩線に乗り換えて、終点が唐木田です。
- または、京王新線新宿から橋本行き急行などに乗車、多摩センターで小田急多摩線に乗り換えて1駅目が唐木田です。
- 都心と唐木田をダイレクトに結ぶ小田急線の多摩急行もあります。



大妻女子大学 多摩キャンパス 社会情報学部

5. 発表形態

発表は口頭発表とポスター発表で行います。講演時間は1件あたり質疑応答も含め20分を予定しています。

使用可能機材は、液晶プロジェクターと OHP が、それぞれ1台です。そのほかに希望がありましたらご連絡ください。液晶プロジェクターで発表の場合、基本的には本学のウィンドウズパソコンを用い、フラッシュメモリー等にデータをコピーして行う予定です。なお、本人のノートパソコン（マッキントッシュなど）を使用する場合はご連絡下さい。

推奨するポスターサイズは横 120cm × 縦 85cm です（A0 で横1枚）。ただし、貼り付けるボードのサイズは横 180cm × 縦 90cm です。この範囲なら差し支えありません。ポスターのショートプレゼンテーションは行いません。

6. 発表要旨

発表要旨は、講演・ポスターともに1題につきA4版1頁以内で作成していただきます。できる限り電子メールで下記へ送付ください。メールアドレス：tama2004@ogeochem.jp（同時にバックアップは事務局に保管されます）。

電子ファイルの標準はWord2000です。このほか、いろいろなフォーマットに対応可能ですのでお問い合わせください。カラー図を使用希望の方はご連絡ください（PDFまたはJPEGでの使用は可能です）。

最終的にまとめたものをA4版で印刷し、綴じてシンポジウム当日に配布します。

要旨は、下記の形式を目途として作成してください。または過去のシンポジウムの要旨集を参考にしてください。

余白(上 25mm, 下 30mm, 左右 20mm 程度), 行数(本文 35 行程度), 文字の大きさ(10 12 ポイント程度), 1・2 行目はタイトルと発表者氏名(センタリング, 発表者の氏名の前に, 連名は・で区切り, 所属は名前の後にカッコ書), 3・4 行目は英文タイトル・氏名・所属

7. 参加費・懇親会費

参加費は以下のとおりです。シンポジウム当日徴収させていただきます。なお, 懇親会は多摩校の学生会館食堂で行う予定です。

シンポジウム参加費: 正会員 1,500 円
学生会員 1,000 円
非会員 2,000 円

懇親会費: 一般 5,000 円
学生 3,000 円

8. その他

ホテルは各自でご予約下さるようお願い致します。ご参考までに多摩シンポジウムの HP (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaog/2004sympo/jog-tm2004/JAOG-Tam2004.htm>) に会場周辺のホテルの例が掲載されております。

号末にシンポジウム参加申込書を添付しますので、ご利用ください。

運営委員会議事録(電子会議議事録)

電子会議議題番号 2003.10.21-1

日本有機地球化学会が 2006 年 8 月 27 日~9 月 1 日までの 6 日間, 福岡市にて開催される第 17 回国際堆積学会議 17th International Sedimentological Congress (ISC2006) の後援団体になることを承認した。(承認期日 2003 年 12 月 24 日)

国際堆積学会(International Association of Sedimentologists)のHPは下記のとおり。

<http://www.blackwellpublishing.com/uk/society/ias/>

Information

ROG 投稿原稿募集中!!

Researches in Organic Geochemistry 編集委員長 奈良岡 浩

日本有機地球化学会々員のみなさま、

今年度より Researches in Organic Geochemistry (ROG) 編集を担当している岡山大・奈良岡です。私の都立大からの異動のため編集作業が滞っていたことをお詫びいたします。

また、ROG への投稿数が非常に少なく、ROG Vol.18 の発行も遅れています。

これから審査・受理証明は速く進めていきますので、みなさんの数多くの投稿をお待ちしております。

ROG Vol. 18 から投稿規定における送付方法を若干変更し、PDF ファイルによる投稿も受け付けています。

投稿規定7の原稿の部数と送り先について以下のようにします。

「投稿に際しては、原稿のオリジナルとコピー2部、または原稿の PDF ファイルを編集委員長宛に送付する。尚、審査後の最終原稿はオリジナル1部とコンピューターファイルにてテキストと図表を提出する。」

みなさまのご投稿をお待ちしております。

投稿先: 奈良岡浩
岡山大学理学部地球科学科
700-8530 岡山市津島中 3-1-1
Tel: 086-251-7887
Fax: 086-251-7895
E-mail: naraoka@cc.okayama-u.ac.jp。

投稿規定は ROG の巻末に掲載されています。

People

若手・ポスドク・院生会員の紹介コーナー「People」です。

驢鳴犬吠的「私の履歴書」

産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門
学振特別研究員 (PD) 大庭雅寛

恵まれているなあ、といつも思う。

子供の頃の環境は、地学への興味を熟成するには、確かにいい環境だった。私の生まれ育った福岡県北九州市は“鉄の町”だ。父も祖父も“製鉄マン”。

すぐ近くの洞海湾岸壁には世界中の鉱石が取り放題だった。鉄鉱石に石炭、石灰石、蛍石、蛇紋岩。五穀豊穰ならぬ五石豊穰だった。

「また石を拾ってきよったばい、この子は」母にそう怒鳴られては捨てられた。でも懲りずにまた拾ってきた。

今でもその癖は治っていない。もっとも、より学問的に鉱物収集として昇華してはいるが。

実家から数百メートルしか離れていないところにプラネタリウムがあったことも恵まれていた。

「50円ちょうだい。プラネタリウム行ってくるけん」

小学生の入場料代を持って、毎週末通った。おかげでプラネタリウムの解説を覚えてしまうほどだった。そして学校で星図を広げては、星座やそれにまつわる神話を夢中で友人に語ったものである。

全くもって、地学的好奇心を養うには、いい環境だった。

小学校高学年で化学にも興味を持ち始めた。夏休みにテレビでたまたま見たNHK「高校理科」がきっかけだ。直に親に化学の本を買ってくれとせがんだ。親が買ってきてくれたのは、高校生用の参考書「化学I・II」。

勿論書いてあることなど理解できない。ただ、化学を学ぶためには、この本の著者である長島弘三先生のいる筑波大学に行けばいいんだ、ということだけは理解した。後日、実は長島先生が鉱物化学の大家であることを知り、より一層、思いは強くなった。

大分県日田の高塚地蔵は、生涯一度だけ願いを聞いてくれることで有名だ。六年生の時に行った際の僕の願いは「筑波大学入学」だった。

どうやら高塚地蔵は本物らしい。平成4年、筑波大学第一学群自然学類に入学した。

入学して間もないまだ4月のある日、市内にある工業技術院地質標本館を見学した際、たまたまロビーにいた豊遥秋先生に鉱物に関する質問をした。

「そうか、君は鉱物に興味があるのか。丁度いい。バイトしてみるかい」

入学早々バイト決定。大学4年間、有名な先生の下で鉱物鑑定眼を養うことができたのは幸運だった。

大学では早速、長島先生の研究室を探したが、残念なことに先生は既に亡くなられていた。唯一筑波に残ったお弟子さんの一人、化学系の中井泉講師（現・東京理科大学教授）の研究室を尋ね、進路についていろいろと相談に乗っていただいた。

「私はもうすぐ筑波を離れることになるので、この研究室で研究をすることはできない。君には選択肢が3つある。鉱物の研究をしたいならば一年留年して地球科学系に行くか、鉱物は趣味に留めて物理化学や有機化学に行くか、それとも地球化学を学ぶために宇宙化学研究室に行くか」

大学三年時の研究室第一希望は宇宙化学研究室で出した。今思えば、いいアドバイスをしていたものだ。

平成7年からは、下山晃教授（現・高知学園短期大学学長）率いる宇宙化学研究室で、熱分析によるケロジェン続成変化の研究を行った。下山先生の終始温かく、適切な御指導の下、個々の熱分解成分がケロジェンから放出される際の活性化エネルギーと前指数因子を算出する方法を新たに示し、さらにそれらの値を用いて、化合物別に堆積物中でのケロジェンからの放出の開始深度や放出量の変化を詳細に復元することが可能であることを明らかにすることができた。在学中、野本信也講師（現・助教授）や三田肇助手（現・講師）、沢田健技官（現・北海道大学講師）にも色々と御指導頂いた。さらに北大の鈴木徳行先生には学会や論文の査読などでアドバイスや御指導を頂けたことも幸いであった。

平成14年の春に博士（理学）の学位を取得した後、半年間は、筑波大学理工学研究科の非常勤講師を勤めた。

博士号取得の報告を兼ねて地質標本館を訪問した際、たまたま御挨拶に伺った産業技術総合研究所 地圏資源環境研究部門 資源有機地化学研究グループの坂田将博士には親身に相談に乗っていただき、幸いなことに同年11月より非常勤職員として研究をさせていただけることになった（平成15年から学振特別研究員として同グループに所属）。

今、私が取り組んでいる研究テーマは、メタン菌バイオマーカーに基づくメタンハイドレートの有機地球化学的研究である。南海トラフの海底堆積物に含まれる、メタン生成菌に特有な脂質バイオマーカーの分析を行い、その組成や鉛直分布等を調べることでメタン生成菌によるメタン生成記録を明らかにし、メタン生成の条件や実体を解明することを目的として研究を行っている。世界の多くの研究者が同様の研究を行っていることから緊張感もあり、大変やりがいのある研究をさせていただけるのはとても有難いことだ。

本当に、恵まれているなあ、といつも思う。



それも多くの方々のおかげだとあらためて思う。
御期待に沿うべく、一層努力しなくては

基礎試錐「東海沖 熊野灘」が実施されたジョイデス・レゾリューション号に乗船し、コア試料をサンプリングする筆者。自分が分析する試料を、自らサンプリングすることがいかに大事か学んだ。

編集後記：ポストク、大学院生や自称若手（？）の方の寄稿をお待ちしております。（編集）

2004 年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。事務局から 2004 年の年会費の納入についてご協力をお願いいたします。年会費は一般会員 2000 円学生会員 1000 円となっております。下記郵便口座までお払い込みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度がわからない等ご不明の点がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局までお問い合わせください。当学会へのご支援ご協力をどうぞよろしく

お願いいたします。

また、職場や自宅を移動された方は名簿作成と郵便物配布のために新しいご住所、電話番号、ファックス番号を下記までご連絡下さい。また、E-mail アドレスをお持ちの方は、ニュースレターのメール配信のため、差し支えない限り E-mail アドレスを事務局までお知らせいただくようお願いいたします。

発行責任者 有機地球化学会会長 福島 和夫

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1 信州大学理学部物質循環学科

Phone: 0263-37-2502, Fax: 0263-37-2560, e-mail: kfukush@gipac.shinshu-u.ac.jp

有機地球化学会事務局

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 8 丁目

北海道大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻内

有機地球化学会事務局

Phone&FAX: 011-706-3683

e-mail: secretariat@ogeochem.jp (事務局員全員に配信されます)

郵便口座 00110-7-76406

(名義人 日本有機地球化学会)

普通口座 319-3463842 (北洋銀行北二十四条支店)

(名義人 日本有機地球化学会 鈴木德行)

編集者 古宮正利(産業技術総合研究所) 早川和秀(滋賀県琵琶湖研究所)

e-mail: news@ogeochem.jp

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。

アドレス: <http://www.ogeochem.jp/>

2004年 月 日

第22回有機地球化学シンポジウム(多摩シンポジウム)
参加申込書(6月30日必着)

発表を 1)行います 2)行いません(いずれかに)

1. 氏名

2. 所属

3. 連絡先の所在地, 電話, FAX, E-mail

4. 発表題目

5. 発表形態

1)口頭 2)ポスター 3)どちらでも可(いずれかに)

6. 使用機器(口頭発表の場合)

1)液晶プロジェクター 2)OHP 3)その他()
(いずれかに)

7. 発表者氏名(所属)(連名の場合発表者に をつけて下さい)

8. 発表に関する希望(発表日時, 発表順など)

懇親会に 1)参加します 2)参加しません(いずれかに)

申込書の送付先(申し込みは郵送, FAX, E-mail, HP のいずれでも可です。

〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1 大妻女子大学社会情報学部 井上源喜

TEL: 042-339-0088, FAX: 042-339-0044, E-mail: genki@otsuma.ac.jp